

令和7年度指定管理者業務モニタリング評価表

施設名	地域振興施設
所在地	豊橋市東七根町字一の沢113番地2
指定管理者	株式会社道の駅とよはし
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
担当課	産業部農業企画課(0532-51-2471)
令和6年度指定管理料(決算)	3, 443, 000円
令和7年度指定管理料(決算見込)	3, 580, 000円

項目		基準	評価				
管理業務の実施状況に関する項目	維持管理業務の実施状況	仕様書等に基づき施設の適切な維持管理業務が行われているか。	仕様書に基づき適正に行われている。				
	自主事業等の実施状況	事業計画書等に基づいた施設の設置目的に沿った事業が実施されているか。	地元農産物を使用する飲食や物販などのテナントを設け、食農教育などのプログラムを企画し、幅広い年齢層のニーズにあわせた効果的な事業が行われている。				
	人員配置等の業務体制	仕様書等で定めた人員配置がなされているか。また、労働環境が関係法令等を遵守した適正なものとなっているか。	仕様書のとおり、適正に人員配置がされており、組織の指示、チェック体制も業務に適した体制が確保されている。また、労働環境は関係法令等が遵守され適正なものとなっている。				
	職員研修の実施状況	事業計画書等に従い職員研修が実施されているか。	救命救急講習（令和8年2月10日）、コンプライアンス研修（令和8年2月10日）、接客・接遇研修（令和8年2月10日）、障がい者・高齢者対応研修（令和8年2月10日）を実施している。				
	個人情報保護の措置状況	協定書の個人情報保護規定に基づき、個人情報が適正に管理されているか。	社員に対し個人情報保護に関する教育を実施するなど、個人情報の適切な取り扱いを行っている（令和8年2月10日）。				
	緊急時対応への取組状況	緊急時の連絡体制があり、かつ訓練等が実施されているか。	東側駐車場を含めた駐車場での事故発生時の対応についての緊急対応マニュアルや、避難誘導体制、災害時における利用者の安全な退館方法についてスタッフへの周知を図るなど、緊急時の連絡体制を整えている。				
施設利用状況	施設利用の許可状況	利用者の公平な選考を確保しているか。	利用者の決定は、規則・要綱に則し適正に行われている。				
	施設利用状況	前年度と比較した利用者数等についてはどうなっているか。 (利用状況を数値化して令和6・7年度を比較)		R5年度	R6年度	R7年度	比較(R7-R6)
			開館日数	365日	364日	364日	0日
			利用者数				
			a.地域振興施設(トマツテ)	1,441,884人	1,542,745人	1,692,772人	150,027人
			b.うち貸室(プロジェクトルーム)	5,618人	17,994人	23,081人	5,087人
			【要因分析】 名豊道路全面開通の影響もあり、施設全体の利用者数に増加がみられた。 貸室利用に関しては、昨年度に引き続き地元企業との連携など積極的なイベント開催が利用客の増加につながったと見られる。				
	サービス向上等への取組状況	施設PRやサービス向上の取組みは実施されているか。	イベントの実施やメディア等を活用した情報発信、道路利用者への適切な情報提供など、道の駅の役割を果たすとともに、質の高いサービスを提供できている。				

況に関する事項	利用者満足度調査結果	利用者への満足度調査(アンケート)等を実施し、業務改善を実施しているか。(指定管理者が自ら行ったアンケート結果に基づく)	【利用者アンケート(施設利用満足度)】 大変満足している…66.9% 満足している…31.4% どちらでもない…0.8% 不満である…0.8% 大変不満である…0% 実施対象：一般利用者 実施時期：6月1日～6月30日 実施方法：記入式 サンプル数：121人 アンケート結果を分析すると、上位2項目(大変満足・満足)の回答が98.3%あり、利用者の満足度はかなり高いものと考えられる。			
	意見箱等	意見箱等に寄せられた具体的な意見	内容		対応	
			豊橋市内の観光情報が知りたい		豊橋市関係団体から配布されるチラシを積極的に配架	
			23号バイパスへの行き方を教えてほしい		お客様用の案内地図を作成し説明	
			座れる場所がもっとほしい		屋外ベンチを追加設置	
苦情・トラブルへの対応	利用者の苦情等への対応は適切であったか。	内容に応じて市と連絡・調整を行いながら迅速かつ適切に対応している。				
管理経費等の収支状況等	経費等の執行管理状況	資金の適正な管理と経理内容の明確化が実施されているか。	資金管理は確実に行われ、適正に実施されている。			
	経費等の収支状況	収支状況が収支計画書と乖離していなかったか。	概ね収支計画書通りの収支状況となっており、コスト削減にも努めている。			
		収支計算書	収入の部		支出の部	
			指定管理料	3,580千円	指定管理事業費	85,878千円
			利用料金収入	40,485千円		
			自主事業収入	18,792千円		
			その他収入	39,727千円		
			収支差額		16,706千円	
指定管理者の提案事業の実施状況	道の駅とよはしでの提案事業である「食農教育・健康増進・農福連携」の実施状況は以下のとおり。 ・「食農教育」 フルーツあんまき、ピレーネ、恵方巻づくり体験やトマトを使ったワークショップの実施 ・「健康増進」 大根とみかわポークを使ったレシピ開発を行い、施設にて配布 ・「農福連携」 くすのき特別支援学校の生徒によるうずらいも収穫体験。また、生徒の調理したうずらいもスイーツ(マドレーヌ)を道の駅とよはしにて販売					
当年度の対応方針	道の駅としての主たる事業である、情報提供と観光振興・企画イベントを実施することで、利用者がより快適に、より安心して来場できる施設を目指し、来場者数と利用者満足度ともに向上させることを目標としてほしい。 提案事業(食農教育・農福連携・健康増進)については、昨年度に引き続き連携を行うよう努めてほしい。 令和6年度に国道23号線が開通されたことにより、年間を通してさらなる来場者数が見込めるため、引き続き道の駅としての役割を果たし、利用者のさらなる向上に努めることを期待したい。					

指定管理者の自己評価	JAあぐりパーク食彩村や生産者、地域振興施設テナント等と連携したイベント企画や、食農教育イベントの実施、積極的な広報宣伝により、豊橋の「食」と「農」の発信に努めた。道の駅全体の来場者数は昨年度と比較し約16.7万人増の約244万人だった。昨年度に引き続き、地元農産物を活用した新商品の開発・販売をするなど、道の駅とよはしの認知度や集客力の向上に努めた。 また、令和4年度から指定管理業務となった、ナショナルサイクルルートのゲートウェイとしての機能維持及び、観光案内の業務に向けたインフォメーションカウンターへのスタッフ常駐、レンタサイクル業務等を適切に行った。さらに、水曜日のマルシェやみちのいち（隔月）の開催など、生産者の販路拡大について引き続きサポートを行った。 その他にも豊橋の魅力を届けるため、東側風除室におけるサイネージ動画での豊橋の魅力的な情報を発信するなどの営業努力を行った。 引き続き、お客様に満足いただけるようにサービス内容の充実、改善を実施していくとともに、東海エリアNo.1の道の駅になるための働きかけに努める。
総合評価	事業計画書、協定書、仕様書等に基づき、令和7年度の指定管理業務が適正に行われた。開駅から7年目を迎え、SNSやサイネージ動画を用いた情報発信やメディアへの情報提供、新製品開発を継続して行うことで、成果目標である道の駅と食彩村を合わせた年間来場者数120万人の2倍を超える244万人を達成し、過去最高集客となった点は評価できる。 また、豊橋の「食」と「農」の発信拠点として、地元農産物等のふるさと納税への出品支援、地元農産物等を活用した飲食事業、地元の農家との新商品開発や月に1回以上マルシェを開催することで生産者の販路確保の支援や地元農産物の魅力発信をした点など、道の駅を利用するお客様や生産者に対しより快適となるような施策を実施しており、高い顧客満足度を維持できた。 さらに、食農教育、健康増進および農福連携に関する事業についても1年を通して充実した取り組みが実施できた。 インフォメーション前の販売エリアを拡充させ、ブラックサンダー関連商品などの販売促進に力を入れるとともに、オリジナル商品（「あおさのりポテトチップス」、「たすのり」）や愛知大学の学生と連携した新商品（「うずらいもたっぷりん」、「塩ポッター」）の開発を行うなど積極的な需要の創出を行った。 一方で、アンケート回収方法の簡素化を図ったが回収数が大きく落ち込んだ。これを受け次年度は回収方法を修正。また、例年のアンケートとは異なる新たな調査手法を導入するなど利用者の声を取り入れやすい環境作りに努めている。 さらに、利用者から声の上がっていた「駐車場の不足・混雑」について、大学と連携し改善を図るなど、課題に対し積極的なアプローチを行う姿勢は評価できる。
次年度の対応方針	道の駅としての主たる事業である、情報提供と観光振興・企画イベントを実施することで、利用者がより快適に、より満足して来場できる施設を目指し、来場者数と利用者満足度ともに向上させることを目標とする。 提案事業（食農教育・農福連携・健康増進）については、昨年度に引き続き継続して連携を行うよう努める。 令和7年度の年間利用者数は過去最高を更新しており、引き続き道の駅としての役割を果たし、利用者のさらなる向上に努めることを期待したい。